

# 生坂村空家等対策計画(案)に対するパブリックコメントの結果について

## 1. 意見募集について

【期間】 令和4年3月2日（水）から令和4年3月17日（木）まで

【閲覧方法】 1. 村公式ホームページ 2. 窓口（設置場所：役場、村図書室）

【受付方法】 郵送、電子メール及び窓口へ持参

## 2. 計画（案）への意見と村の考え方

【意見数】 1件（考え方お答えのため、分けて表示）

意見（原文のまま記載）	村の考え方
<p>・ 全国の空家率 13.6%、長野県 19.6%に対して、生坂村について提供された情報（空家件数 234、世帯数 714）からは空家率およそ 25%と計算出来、およそ 4 件に 1 件で長野県平均を大きく上回っている。（ある意味活用のチャンス？）</p> <p>・ 空家の所有者へのアンケートから、借り手・買い手がなく、と理由付けた回答はわずかで、必ずしも物件自体に価値がないためではなく、（高齢により）売るための術を持たないため、というのも多くあると思われ、記載されている空き家バンク周知の活動は大変有効ではないか。</p>	<p>生坂村内の空家等は人口減少に伴い増加傾向にあります。空家は、空き家バンク等によって利活用することで、地域に賑わいを取り戻すことができる重要な資源でもあることから、所有者への周知や相談への対応体制の構築などにより利活用を進めてまいります。</p>
<p>・ 移住・定住を如何に進めるか、との観点を中心なのは当然と思うが、一方で（村の北部の空家が多いことから公共施設から遠い地域は特に）定住ありきだけで考えるのはどうか。まずは生坂村および周辺地域に足を運んでもらうことにも重点をおいて、①セカンドハウスとしての取得を後押しすることにより、物件取得のハードルを下げられないか</p> <p>②空家物件を旅行者の滞在先として活用する仕組みはできないか。これについては例えば必要な改修をサポートする仕組みを作り、エアビーなどの民泊サイトへの登録を促す、あるいはより主体的に村で管理する形で民泊を後押しすることにより、生坂村および周辺地域への旅行者を増やせないか（民泊物件が気に入れば販売に繋げるのもあり？）。</p>	<p>村の人口が減少している中、生坂村の定住人口を増やしていくことが一番ですが、テレワークや二地域居住など、働き方や暮らし方が近年多様化していることから、ライフスタイルの変化に合わせた空家等の利活用も検討していく必要があります。</p> <p>また、空き家バンクを通じて、空家のゲストハウスや飲食店としての活用の相談も寄せられることもあり、生坂村への交流人口を増加させるためにも、空家の多様な活用を推進していくことも重要です。</p> <p>ご提案いただきました、多様な空家の利活用については、ニーズの変化や多様化に対応した取り組みを検討していくという視点として、計画に反映させていただきます。</p>

・農地の活用：首都圏などでは近郊の農地を貸し出すことがされており、人気となっている（場所による？）。農地を村（いくさか大好き隊）のバックアップで活用することで遠方の人に村に足を運んでもらうきっかけに出来ないか。空き家バンクに登録して先祖代々の土地を処分することに躊躇する方も農地の貸し出しならハードルが低いのでは。

生坂村の空き家バンク物件には農地付き空家が多く、農地付きの物件を探しているといったご相談も多くいただいております。農地の利用ニーズが高いことを認識しています。ご提案いただいた農地の貸し出しについては、関係部署と共有し、遊休農地の活用と地域活性化の観点から検討してまいります。